

水道事業ビジョン 令和3年度評価

- 1…「目標に向けて計画通りに進捗」
- 2…「進捗に少し遅れがあるが、翌年度以降の計画期間内に目標到達する見込みがある」
- 3…「取組内容の拡充や見直しが必要」

継続…現状通り取組を継続することが 適当である	改善…取組内容や方法を見直す 必要がある
拡充…取組方法の拡充を図る必要がある	廃止…取組を廃止すべきである
縮小…取組方法の規模の縮小を図る	事業完了…目標達成のため終了した 事業

目標値に向けて順調に進んでいる

目標値から離れている
進捗の遅れ等で数値が悪化している

	目標	実現方策		具体的な取り組み	総合評価	今後の方向性	主な指標					主な指標の 評価	備考	
							指標名	基準値 (2017年度)	前年度	2021年度	目標値 (2028年度)			
安全	1. 安全な水を 届けます	1	適切な 水質管理 (水安全計画の 推進)	・水道水の安全性を維持するため、水安全計画を推進する。 ・流木浄水場の水源である深井戸の適正な維持管理を実施する。 ・前年度に構築した流木浄水場水源監視のための水質検査体制を維持する。 ・水安全計画に基づいた管理目標値を遵守するため、設備点検及び水質検査を実施する。 ・多種多様な手法での取り組みにより、効果的・計画的な鉛製給水管の解消を図る。	1	水質管理の徹底など水安全計画を推進し、各種の取り組みについては順調な進捗で目標到達が見込める状況である。	継続	原水水質監視度	37項目	43項目	43項目	43項目		1ヶ月に1回以上
								水源の水質事故件数	0件/年	0件/年	0件/年	0件/年		
								鉛製給水管率	15.6%	11.5%	11.2%	10.0%以下		
		2	安定した給水	・給水装置工事施行要領に基づく的確な設計審査及び工事検査の実施を行う。 ・小規模貯水槽設置者へのリーフレット配布や指導マニュアルの更新を行う。 ・直結増圧給水方式への変更を啓発し、直結給水の普及促進を行う。 ・指定更新手続の該当事業者へ通知を行い、指定更新の周知と手続を促す。 ・登録情報の修正手続を促し、事業者の把握している運営状況の更新を図る。	1	給水装置の安全性や貯水槽水道における衛生的な水の確保など、適切な取り組みは遂行できている一方、経年化による給水管の漏水は増加傾向にあるため、今後も指標数値による給水管の健全性を把握しつつ、安定した給水を継続する。 また、指定給水装置工事事業者の更新手続の案内によって、事業者の実態把握が大きく進んだ。今後も周知の徹底と状況確認の把握に努める。	継続	給水管の事故割合	2.6件 /1000件/年	2.9件 /1000件/年	2.9件 /1000件/年	2.6件以下 /1000件/年		
強靱	2. 耐震化を 進めます	1	水道施設の 耐震化の推進	・光明配水場配水池の耐震工事実施設計を行う。 ・地震に強い配水系統を構築するため、基幹管路等の耐震化を進める。	1	配水池や水道管などの水道施設について、中長期計画に基づき効率的で効果的な耐震化は順調に進捗している。	継続	配水池の耐震化率	19.0%	19.0%	19.0%	67.0%		
								基幹管路等の耐震適合率	24.5%	29.5%	30.1%	38.0%		
	3. 災害に 備えます	1	危機管理装備 の 充実	・現状と課題の整理を行い、課題への対応に必要な整備項目を検討する。 ・白原配水場の自家発電設備及び応急給水栓設置の実施設計を行う。	1	応急給水拠点の整備計画を策定し、必要な設備の整備に着手しており、危機管理装備の充実に向けた取り組みは順調に進捗している。	継続	応急給水設備の設置個所数	6箇所	6箇所	6箇所	8箇所		
								自家発電設備設置ポンプ所数	6箇所	6箇所	6箇所	7箇所		
		2	危機管理体制 の 構築	・現状のマニュアルについて、近年の災害状況や情勢に合わせた更新を行う。 ・災害対策用品の調達を行う。 ・災害時の応急給水拠点の確認を行う。 ・各種災害対策マニュアルに記載されている役割分担を踏まえた訓練を行い、職員ひとりひとりの防災意識と防災力を高めていく。	1	和歌山市の水管橋事故への給水支援の経験を活かし、迅速な災害対応が行えるように、引き続きマニュアル整備、訓練の充実を行う。 また、新型コロナウイルス感染症によって発生するリスクを踏まえ、様々な状況に対応できるよう、危機管理能力の向上に努める。	継続	災害対策訓練実施回数	14回/年	19回/年	18回/年	17回以上 /年		
持続	4. 健全な 施設を 保持します	1	老朽化した施設 の適正な維持 管理・更新	・更新基準年数や老朽度等を多面的に検討した効率的な管路の更新を行う。 ・中長期計画に基づく設備の更新を推進する。 ・管路情報を一元管理するマッピングシステムにより、計画的な維持管理を行う。 ・安定して水道水を供給するため、計画的な維持管理を推進する。	1	中長期計画に基づき、老朽化した施設の適正な維持管理・更新を実施した。継続して事業を推進する。また、施設台帳については、マッピングシステムにより一元管理をするため、引き続き台帳整備を行う。	継続	法定耐用年数超過管路率	27.2%	33.6%	34.7%	39.0%		
								更新基準年数超過管路率	23.7%	23.5%	24.6%	31.5%		
								法定耐用年数超過設備率	31.7%	37.5%	39.5%	37.5%		
								更新基準年数超過設備率	13.3%	13.0%	14.5%	12.4%		
	2	水道施設規模 の 最適化	・管路更新時における、実情に応じたダウンサイジングでの最適化を実施する。 ・流木配水場内の1・2・3号配水池の廃止に向けた管路工事について、検討、実施設計を行う。	1	中長期計画に基づき、将来の水需要減少に応じた規模で更新整備を実施しており、水道施設規模の最適化は順調に進捗している。	継続								
5. サービスの 向上に努めま す	1	お客様の 利便性向上	・お客様一人ひとりの生活様式に合わせて、水道の開閉栓や水道料金の収納などの手続きを容易に行えるよう、多様なサービスの提供と周知に努めた。	1	口座振替、最寄りの銀行やコンビニの窓口、スマートフォン決済での納付が収納額全体の98%を超え、多くのお客様に支持されている。令和2年11月に導入したスマートフォン決済の収納額は、収納額全体に占める割合が約1%であるが、導入初年度と比べ月平均2.4倍に増加している。引き続き、お客様の利便性向上を図るため、既存のサービスの周知に努めるとともに、新たな決済サービスについて調査検討を行う。	継続								
2	水道事業の 見える化	・局内の情報発信能力の底上げのため、局内ホームページの定期的な更新を行った。 ・新たな情報発信ツールとしてSNSの利用を検討した。 ・水道事業への理解を深めてもらうため、流木浄水場の見学を実施する。（新型コロナウイルス感染症対策として受入中止）	2	新型コロナウイルス感染症により直接市民に広報・広聴する機会が設けられなかったため、ホームページ等による情報発信の強化に努めた。今後も新しい生活様式に合わせた情報発信方法や広聴活動手段を模索していく。	継続	インターネットによる 情報の提供度	199回/年	354回/年	293回/年	300回以上 /年				
						ホームページアクセス数 増加割合（前年度比較）	100%	128%	97%	100%				
						水道施設見学受入回数	10回/年	受入なし	受入なし	10回以上 /年				

資料⑤

水道事業ビジョン 令和3年度評価

【総合評価】

- 1…「目標に向けて計画通りに進捗」
- 2…「進捗に少し遅れがあるが、翌年度以降の計画期間内に目標到達する見込みがある」
- 3…「取組内容の拡充や見直しが必要」

【今後の方向性】

継続…現状通り取組を継続することが
適当である
拡充…取組方法の拡充を図る必要がある
縮小…取組方法の規模の縮小を図る

改善…取組内容や方法を見直す
必要がある
廃止…取組を廃止すべきである
事業完了…目標達成のため終了した事業

【主な指標の評価】

各指標の目標値を基準にした評価

目標値に向けて
順調に進んでいる

目標値から離れている
進捗の遅れ等で数値が悪化している

	目標	実現方策		具体的な取り組み	総合評価	今後の方向性	主な指標					主な指標の 評価	備考
							指標名	基準値 (2017年度)	前年度	2021年度	目標値 (2028年度)		
持 続	6. 業務の 効率化を 図ります	1	業務体制の 効率化	・現在導入されているシステム・機器を業務に合わせて適切に維持管理していく。 ・水道施設台帳の記載内容を更新する。	2	継続							
		2	環境負荷の 低減対策	・施設更新時における省エネルギー設備の導入検討を推進する。 ・小水力発電の活用を推進する。 ・工事において、環境負荷の小さい機械材料を積極的に使用し、環境負荷の低減に努める。	1	継続	配水量1㎡当たり電力消費量	0.16 kWh/㎡/年	0.15 kWh/㎡/年	0.15 kWh/㎡/年	0.16kWh以下 /㎡/年	➡	
		3	民間活用 の検討	・基盤強化の選択肢拡充のため、DB発注方式など地域の実情に応じた官民連携の検討を行う。	1	継続							
		4	広域化の 検討	・大阪府主催の「府域一水道に向けた水道のあり方協議会」に参加し、広域化に向けて検討を進める。 ・大阪広域水道企業団と「企業団との統合に向けた検討、協議に関する覚書」を締結し、広域化に向けた検討を進める。	1	継続							
	7. 持続可能な 経営に努めま す	1	安定した 経営の継続	・アセットマネジメントを取り入れた計画に基づく予算編成・執行管理を行う。 ・補助金等の財源を確保することにより企業債残高を抑制する。 ・中長期的な視点から適正な料金水準の検討を行う。	1	継続	経常収支比率	101.3%	104.4%	106.7%	100%以上	➡	
							給水収益に対する 企業債残高の割合	359.6%	445.7%	428.1%	500%	➡	
							料金回収率	97.5%	100.0%	101.9%	100%以上	➡	
							流動比率	218.8%	126.3%	151.3%	200%以上	➡	
		2	有収率の維持 及び 料金収納率の 向上	・計画的かつ効率的な調査の実施と、調査結果蓄積による漏水防止対策の検討を行う。 ・適切な水道メータの検針や取替・管理業務を継続しつつ、料金未納者への適切な措置を講じる。	1	継続	有収率	94.7%	94.8%	95.3%	95.0% 以上	➡	
		3	財源確保の 検討	・施設用地の一部を一般企業に貸し出して、使用料収入を得る。 ・耐震化補助金の採択基準を達成する。新たに活用可能な補助金を検討する。 ・収入の確保、費用の削減の取り組みにより収支改善を図る。	1	継続	企業債充当率	100%	100%	100%	75%	➡	
		4	組織力の 維持・強化	・局で実施している事業を円滑に進めるため、技術職員の確保を人事担当部局も協力して努力をしていく。 ・職員の資格取得を奨励し、全体としてスキルアップを図る。 ・基礎知識の習得を目指し、電子教材を作成して新規配属職員向けの研修を実施した。 ・各課におけるマニュアルの状況確認、整理、改善の検討を行う。	2	継続	水道技術に関する 資格取得度	1.43件/人	1.68件/人	1.67件/人	1.43以上件 /人	➡	
							外部研修時間	3.6 時間/人/年	4.5 時間/人/年	1.9 時間/人/年	7.0 時間/人/年	➡	
							内部研修時間	1.7 時間/人/年	3.8 時間/人/年	3.9 時間/人/年	3.0 時間/人/年	➡	
							業務マニュアル整備率	75%	86%	86%	100%	➡	

進行管理シート①

目標 【安全】1. 安全な水を届けます

資料⑤

実現方策 1-1 適切な水質管理(水安全計画の推進)

1. 主な指標

PI番号	指標名	単位	2017(基準値)	2021数値	2028(目標値)
A201	原水水質監視度	項目	37 (1カ月に1回以上)	43	43 (1カ月に1回以上)
A301	水源の水質事故件数	件/年	0	0	0
A401	鉛製給水管率	%	15.6	11.2	10.0以下

2. 具体的な取り組み(令和3年度)

○水質管理の徹底

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	水道水の安全性を維持するため、水安全計画を推進する。	浄水課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	水安全計画推進ワーキングチームで実施状況の検証及び妥当性確認を実施し、計画を推進した。また、レビューを実施し、計画を改定した。	評価	1
---------	---	----	---

○自己水源の適正な保全

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	流木浄水場の水源である深井戸の適正な維持管理を実施する。	浄水課	継続
継続	構築した流木浄水場水源監視のための水質検査体制を維持する。	浄水課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	深井戸揚水ポンプの整備を実施し、水源監視の水質検査項目を維持するため、ガスクロマトグラフ質量分析計を更新した。	評価	1
---------	---	----	---

○残留塩素濃度の管理体制の強化

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	水安全計画に基づいた管理目標値を遵守するため、設備点検及び水質検査を実施する。	浄水課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	定期的な薬品注入設備点検及び水質モニター等による水質検査を実施して、管理目標値内に収まるよう薬品注入量を調整した。	評価	1
---------	---	----	---

○鉛製給水管の解消

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	多種多様な手法での取り組みにより、効果的・計画的な鉛製給水管の解消を図る。	上水道工務課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	配水管布設替や給水工事に伴う鉛製給水管の解消件数は減少し、目標の430件を下回る259件となったが、引き続き実施可能な事業の範囲で対応を継続し、鉛製給水管の解消を図る。	評価	1
---------	--	----	---

3. 総合的な評価と方向性

総合評価	1	水質管理の徹底など水安全計画を推進し、各種の取り組みについては順調な進捗で目標到達が見込める状況である。	方向性
			継続

方向性	継続…現状通り取組を継続することが適当である 拡充…取組方法の拡充を図る必要がある 縮小…取組方法の規模の縮小を図る 改善…取組内容や方法を見直す必要がある 廃止…取組を廃止すべきである 事業完了…目標達成のため終了した事業
-----	---

評価	1…「目標に向けて計画通りに進捗」 2…「進捗に少し遅れがあるが、翌年度以降の計画期間内に目標到達する見込みがある」 3…「取組内容の拡充や見直しが必要」
----	---

進行管理シート②

目標 【安全】1. 安全な水を届けます

資料⑤

実現方策 1-2 安定した給水

1. 主な指標

PI番号	指標名	単位	2017（基準値）	2021 数値	2028（目標値）
B208	給水管の事故割合	件/1000件/年	2.6	2.9	2.6以下

2. 具体的な取り組み（令和3年度）

○的確な給水装置工事審査の実施

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	給水装置工事施行要領に基づく的確な設計審査及び工事検査の実施を行う。	上水道工務課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	1,318件の申込みに対する的確な設計審査及び工事検査を実施し、安全で安心な給水管理に努めた結果、施工不良等による給水管の漏水はなかった。	評価	1
---------	---	----	---

○貯水槽水道の適正管理

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	小規模貯水槽設置者へのリーフレット配布や指導マニュアルの更新を行う。	上水道工務課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	貯水槽設置者712戸にリーフレットを配布し、点検及び清掃依頼で適正管理の啓発に努めた。また、アンケートを実施し、貯水槽管理者の意識調査を行った。	評価	1
---------	--	----	---

○直結増圧給水方式の普及促進

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	直結増圧給水方式への変更を啓発し、直結給水の普及促進を行う。	上水道工務課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	貯水槽設置者に対し、直結給水に関するメリットのPRで啓発を行った結果、直結増圧方式への変更が1件あった。今後も引き続き、啓発等を行い直結給水の普及促進を行う。	評価	1
---------	---	----	---

○指定給水装置工事事業者制度の改善

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	指定更新手続の該当事業者へ通知を行い、指定更新の周知と手続きを促す。	総務課	継続
継続	登録情報の修正手続を促し、事業者の把握している運営状況の更新を図る。	総務課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	指定更新の対象事業者数に106件対し、42件の更新手続を行った。残りの事業者は廃業等により更新を行わなかったことを確認し、登録状況の整理を行った。今後も運営状況の確認を行う。	評価	1
---------	---	----	---

3. 総合的な評価と方向性

総合評価	1	給水装置の安全性や貯水槽水道における衛生的な水の確保など、適切な取り組みは遂行できている一方、経年化による給水管の漏水は増加傾向にあるため、今後も指標数値による給水管の健全性を把握しつつ、安定した給水を継続する。 また、指定給水装置工事事業者の更新手続の案内によって、事業者の実態把握が大きく進んだ。今後も周知の徹底と状況確認の把握に努める。	方向性
			継続

方向性	継続…現状通り取組を継続することが適当である 拡充…取組方法の拡充を図る必要がある 縮小…取組方法の規模の縮小を図る 改善…取組内容や方法を見直す必要がある 廃止…取組を廃止すべきである 事業完了…目標達成のため終了した事業
-----	---

評価	1…「目標に向けて計画通りに進捗」 2…「進捗に少し遅れがあるが、翌年度以降の計画期間内に目標到達する見込みがある」 3…「取組内容の拡充や見直しが必要」
----	---

進行管理シート③

目標

【強靱】2. 耐震化を進めます

資料⑤

実現方策

2-1 水道施設の耐震化の推進

1. 主な指標

PI番号	指標名	単位	2017（基準値）	2021 数値	2028（目標値）
B604	配水池の耐震化率	%	19.0	19.0	67.0
—	基幹管路等の耐震適合率	%	24.5	30.1	38.0

2. 具体的な取り組み（令和3年度）

○ポンプ所・配水池等の耐震化

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	光明配水場配水池の耐震工事实施設計を行う。	浄水課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	中長期計画における耐震化方針に基づき、光明配水場配水池の耐震補強実施設計を行う。令和5年度に予定している耐震補強工事が完了すれば、耐震化率が30.8%となる予定です。	評価	1
---------	---	----	---

○水道管の耐震化

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	地震に強い配水系統を構築するため、基幹管路等の耐震化を進める。	上水道工務課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	中長期計画における耐震化方針に基づき、効率的で効果的な管路の耐震化を図った。	評価	1
---------	--	----	---

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

3. 総合的な評価と方向性

総合評価	1	配水池や水道管などの水道施設について、中長期計画に基づき効率的で効果的な耐震化は順調に進捗している。	方向性
			継続

方向性

継続…現状通り取組を継続することが適当である
 拡充…取組方法の拡充を図る必要がある
 縮小…取組方法の規模の縮小を図る
 改善…取組内容や方法を見直す必要がある
 廃止…取組を廃止すべきである
 事業完了…目標達成のため終了した事業

評価

1…「目標に向けて計画通りに進捗」
 2…「進捗に少し遅れがあるが、翌年度以降の計画期間内に目標到達する見込みがある」
 3…「取組内容の拡充や見直しが必要」

進行管理シート④

目標 【強靱】3. 災害に備えます

資料⑤

実現方策 3-1 危機管理装備の充実

1. 主な指標

PI番号	指標名	単位	2017（基準値）	2020数値	2028（目標値）
—	応急給水設備の設置箇所数	箇所	6	6	8
—	自家発電設備設置ポンプ所数	箇所	6	6	7

2. 具体的な取り組み（令和3年度）

○応急給水拠点の整備

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	現状と課題の整理を行い、課題への対応と必要な整備項目を検討する。	上水道工務課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	配水場や緊急貯水槽などの水道施設と、避難所となる施設等を応急給水拠点と位置付けている。給水タンクを計画的に調達し、主要な避難所で応急給水できるよう調整している。	評価	1
---------	--	----	---

○応急給水設備等の整備

種別	取組内容	担当課	方向性
新規	白原配水場の自家発電設備及び応急給水栓設置の実施設計を行う。	浄水課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	令和4年度に白原配水場ポンプ整備工事と併せて自家発電設備及び応急給水栓設置を行う。	評価	1
---------	---	----	---

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

3. 総合的な評価と方向性

総合評価	1	方向性
	応急給水拠点の整備計画を策定し、必要な設備の整備に着手しており、危機管理装備の充実に向けた取り組みは順調に進捗している。	継続

方向性

継続…現状通り取組を継続することが適当である
 拡充…取組方法の拡充を図る必要がある
 縮小…取組方法の規模の縮小を図る
 改善…取組内容や方法を見直す必要がある
 廃止…取組を廃止すべきである
 事業完了…目標達成のため終了した事業

評価

1…「目標に向けて計画通りに進捗」
 2…「進捗に少し遅れがあるが、翌年度以降の計画期間内に目標到達する見込みがある」
 3…「取組内容の拡充や見直しが必要」

進行管理シート⑤

目標 【強靱】3. 災害に備えます

資料⑤

実現方策 3-2 危機管理体制の構築

1. 主な指標

PI番号	指標名	単位	2017（基準値）	2021 数値	2028（目標値）
B210	災害対策訓練実施回数	回/年	14	18	17以上

2. 具体的な取り組み（令和3年度）

○危機対応マニュアルの更新・整備

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	現状のマニュアルについて、近年の災害状況や情勢に合わせた更新を行う。	総務課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	直近の災害状況にあわせて各マニュアルの更新を行い、新たに受援マニュアルの作成を行った。	評価	1
---------	---	----	---

○きめ細やかな準備

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	災害対策用品の調達を行う。	総務課	継続
継続	災害時の応急給水拠点の確認を行う。	総務課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	受援マニュアル作成と同時に、重要給水拠点である医療機関への給水体制についても確認した。今後も必要な災害対策用品を調達し、大規模災害に備えていく。	評価	1
---------	--	----	---

○災害対策訓練の実施

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	各種災害対策マニュアルに記載されている役割分担を踏まえた訓練を行い、職員ひとりひとりの防災意識と防災力を高めていく。	総務課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	和歌山市の水管橋事故による災害支援を行った状況をフィードバックし、風水害以外の事故への意識や対策、災害時の受援体制について深く検討することができた。	評価	1
---------	--	----	---

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

3. 総合的な評価と方向性

総合評価	1	和歌山市の水管橋事故への給水支援の経験を活かし、迅速な災害対応が行えるように、引き続きマニュアル整備、訓練の充実を行う。 また、新型コロナウイルス感染症によって発生するリスクを踏まえ、様々な状況に対応できるよう、危機管理能力の向上に努める。	方向性
			継続

方向性	継続…現状通り取組を継続することが適当である 拡充…取組方法の拡充を図る必要がある 縮小…取組方法の規模の縮小を図る 改善…取組内容や方法を見直す必要がある 廃止…取組を廃止すべきである 事業完了…目標達成のため終了した事業
-----	---

評価	1…「目標に向けて計画通りに進捗」 2…「進捗に少し遅れがあるが、翌年度以降の計画期間内に目標到達する見込みがある」 3…「取組内容の拡充や見直しが必要」
----	---

進行管理シート⑥

目標 【持続】4. 健全な施設を保持します

資料⑤

実現方策 4-1 老朽化した施設の適正な維持管理・更新

1. 主な指標

PI番号	指標名	単位	2017（基準値）	2021数値	2028（目標値）
B503	法定耐用年数超過管路率	%	27.2	34.7	39.0
—	更新基準年数超過管路率	%	23.7	24.6	31.5
B502	法定耐用年数超過設備率	%	31.7	39.5	37.5
—	更新基準年数超過設備率	%	13.3	14.5	12.4

2. 具体的な取り組み（令和3年度）

○継続した老朽化対策

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	更新基準年数や老朽度等を多面的に検討した効率的な管路の更新を行う。	上水道工務課	継続
継続	中長期計画に基づく設備の更新を推進する。	浄水課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・管路診断システムを活用し、リスクの高い老朽管を優先的に布設替えを行った。 ・維持管理を適正に行い延命化を図ると共に更新が必要な設備は更新を進める。 ・ポンプ設備更新工事を発注したが、コロナ禍の影響で機器納品が出来ず次年度まで工期延長した。 	評価	2
---------	--	----	---

○適正な維持管理の実施

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	管路情報を一元管理するマッピングシステムにより、計画的な維持管理を行う。	上水道工務課	継続
継続	安定して水道水を供給するため、計画的な維持管理を推進する。	浄水課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・竣工図面や給水台帳については、マッピングシステムにより一元管理し計画的な維持管理ができています。 ・必要な機器の整備を行い延命化を図っている。 	評価	1
---------	---	----	---

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

3. 総合的な評価と方向性

総合評価	1	中長期計画に基づき、老朽化した施設の適正な維持管理・更新を実施した。継続して事業を推進する。また、施設台帳については、マッピングシステムにより一元管理をするため、引き続き台帳整備を行う。	方向性
			継続

方向性	継続…現状通り取組を継続することが適当である 拡充…取組方法の拡充を図る必要がある 縮小…取組方法の規模の縮小を図る 改善…取組内容や方法を見直す必要がある 廃止…取組を廃止すべきである 事業完了…目標達成のため終了した事業
-----	---

評価	1…「目標に向けて計画通りに進捗」 2…「進捗に少し遅れがあるが、翌年度以降の計画期間内に目標到達する見込みがある」 3…「取組内容の拡充や見直しが必要」
----	---

進行管理シート⑦

目標 【持続】4. 健全な施設を保持します

資料⑤

実現方策 4-2 水道施設規模の最適化

1. 主な指標

PI番号	指標名	単位	2017（基準値）	2020数値	2028（目標値）

2. 具体的な取り組み（令和3年度）

○施設規模の最適化を考慮した更新整備

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	管路更新時における、実情に応じたダウンサイジングでの最適化を実施する。	上水道工務課	継続
継続	流木配水場内の1・2・3号配水池の廃止に向けた管路工事について、検討、実施設計を行う。	浄水課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	<ul style="list-style-type: none"> 中長期計画の検討結果を基に管網計算を適宜行い、最適な規模での管路更新を行った。 流木配水場の配水池は、配水量の減少に伴い、容量に余裕が発生し、水道事業当初からある1号配水池を含む3池の廃止を管路の耐震化と同時に実施する。 	評価	1
---------	---	----	---

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

3. 総合的な評価と方向性

総合評価	1	中長期計画に基づき、将来の水需要減少に応じた規模で更新整備を実施しており、水道施設規模の最適化は順調に進捗している。	方向性
			継続

方向性	継続…現状通り取組を継続することが適当である 拡充…取組方法の拡充を図る必要がある 縮小…取組方法の規模の縮小を図る 改善…取組内容や方法を見直す必要がある 廃止…取組を廃止すべきである 事業完了…目標達成のため終了した事業
-----	---

評価	1…「目標に向けて計画通りに進捗」 2…「進捗に少し遅れがあるが、翌年度以降の計画期間内に目標到達する見込みがある」 3…「取組内容の拡充や見直しが必要」
----	---

進行管理シート⑧

目標 【持続】5. サービスの向上に努めます

資料⑤

実現方策 5-1 お客様の利便性向上

1. 主な指標

PI番号	指標名	単位	2017（基準値）	2020数値	2028（目標値）

2. 具体的な取り組み（令和3年度）

〇お客様の利便性向上

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	お客様一人ひとりの生活様式に合わせて、水道の開閉栓や水道料金の収納などの手続きを容易に行えるよう、多様なサービスの提供と周知に努めた。	料金課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	開閉栓については、窓口、電話及びFAXで受付をしている。料金収納については、上下水道局窓口、集金、金融機関、コンビニでの納付、口座振替、スマートフォン決済などの多様な納付手段を提供している。今後も低コストで利便性の高いサービスを調査、研究する。	評価	1
---------	--	----	---

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

3. 総合的な評価と方向性

総合評価	1	方向性
	口座振替、最寄りの銀行やコンビニの窓口、スマートフォン決済での納付が収納額全体の98%を超え、多くのお客様に支持されている。令和2年11月に導入したスマートフォン決済の収納額は、収納額全体に占める割合が約1%であるが、導入初年度と比べ月平均2.4倍に増加している。引き続き、お客様の利便性向上を図るため、既存のサービスの周知に努めるとともに、新たな決済サービスについて調査検討を行う。	継続

方向性	継続…現状通り取組を継続することが適当である 拡充…取組方法の拡充を図る必要がある 縮小…取組方法の規模の縮小を図る 改善…取組内容や方法を見直す必要がある 廃止…取組を廃止すべきである 事業完了…目標達成のため終了した事業
-----	---

評価	1…「目標に向けて計画通りに進捗」 2…「進捗に少し遅れがあるが、翌年度以降の計画期間内に目標到達する見込みがある」 3…「取組内容の拡充や見直しが必要」
----	---

進行管理シート⑨

目標 【持続】5. サービスの向上に努めます

資料⑤

実現方策 5-2 水道事業の見える化

1. 主な指標

PI番号	指標名	単位	2017（基準値）	2020数値	2028（目標値）
C402	インターネットによる情報の提供度	回/年	199	293	300
—	ホームページアクセス数増加割合	%	100	97	100以上
—	水道施設見学受入回数	回/年	10	受入なし	10以上

2. 具体的な取り組み（令和3年度）

OPR活動の充実

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	局内の情報発信能力の底上げのため、局内ホームページの定期的な更新を行った。	総務課	継続
新規	新たな情報発信ツールとしてSNSの利用を検討した。	総務課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	コロナ禍により利用者に直接広報広聴ができるイベントが開催出来なかったため、インターネットを使った新たな情報発信手段として、SNSの利用検討を行った。次年度以降に利用開始を行う予定。	評価	1
---------	--	----	---

○水道施設見学の受入

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	水道事業への理解を深めてもらうため、流木浄水場の見学を実施する。（新型コロナウイルス感染症対策として受入中止）	浄水課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	新型コロナウイルス感染症対策として、見学者の受け入れは行わなかった。今後の状況に合わせ、小学校の水道施設見学の受入を推進する。	評価	2
---------	---	----	---

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

3. 総合的な評価と方向性

総合評価	2	新型コロナウイルス感染症により直接市民に広報・広聴する機会が設けられなかったため、ホームページ等による情報発信の強化に努めた。今後も新しい生活様式に合わせた情報発信方法や広聴活動手段を模索していく。	方向性
			継続

方向性	継続…現状通り取組を継続することが適当である 拡充…取組方法の拡充を図る必要がある 縮小…取組方法の規模の縮小を図る 改善…取組内容や方法を見直す必要がある 廃止…取組を廃止すべきである 事業完了…目標達成のため終了した事業
-----	---

評価	1…「目標に向けて計画通りに進捗」 2…「進捗に少し遅れがあるが、翌年度以降の計画期間内に目標到達する見込みがある」 3…「取組内容の拡充や見直しが必要」
----	---

進行管理シート⑩

目標 【持続】6. 業務の効率化を図ります

資料⑤

実現方策 6-1 業務体制の効率化

1. 主な指標

PI番号	指標名	単位	2017（基準値）	2020数値	2028（目標値）

2. 具体的な取り組み（令和3年度）

○システムの効率的な運用管理

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	現在導入されているシステム・機器を業務に合わせて適切に維持管理していく。	総務課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	システムや機器の更新がない年度であったため、大きな変更等はなかった。導入されているシステムについては各課で適切に運用管理されており、大きな障害等もなかった。	評価	1
---------	--	----	---

○水道施設台帳の活用

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	水道施設台帳の記載内容を更新する。	浄水課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	新設設備の追加、設備更新、記載情報の項目追加、施設台帳と固定資産台帳との関連付けができるよう記載項目等の見直しを行った。	評価	1
---------	--	----	---

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

3. 総合的な評価と方向性

総合評価	1	水道施設台帳の活用において、設備関係の情報更新が多く、過去情報や整備記録の登録を整理しながら、効率的な運用が可能になるよう継続して努めていく。また、元年度に更新した各システムを局内で効率的に活用できるよう、業務精度の向上に努めていく。	方向性
			継続

方向性	継続…現状通り取組を継続することが適当である 拡充…取組方法の拡充を図る必要がある 縮小…取組方法の規模の縮小を図る 改善…取組内容や方法を見直す必要がある 廃止…取組を廃止すべきである 事業完了…目標達成のため終了した事業
-----	---

評価	1…「目標に向けて計画通りに進捗」 2…「進捗に少し遅れがあるが、翌年度以降の計画期間内に目標到達する見込みがある」 3…「取組内容の拡充や見直しが必要」
----	---

進行管理シート⑪

目標 【持続】6. 業務の効率化を図ります

資料⑤

実現方策 6-2 環境負荷の低減対策

1. 主な指標

PI番号	指標名	単位	2017（基準値）	2020数値	2028（目標値）
B301	配水量1㎡当たり電力消費量	kWh/㎡/年	0.16※	0.15	0.16以下

※流木浄水場停止による影響を受ける指標のため、2016年度数値を採用

2. 具体的な取り組み（令和3年度）

○省エネルギー設備の導入検討

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	施設更新時における省エネルギー設備の導入検討を推進する。	浄水課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	次年度更新予定のポンプ設備について、ダウンサイジング及び高効率ポンプの導入を検討した。	評価	1
---------	---	----	---

○小水力発電の活用

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	小水力発電の活用を推進する。	浄水課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	光明配水場に場所貸しによる小水力発電設備設置の協定を結んだ。翌年度に発電設備を設置し運用開始する予定。	評価	1
---------	---	----	---

○省資源対策の推進

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	工事において、環境負荷の小さい機械材料を積極的に使用し、環境負荷の低減に努める。	上水道工務課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	工事については、再生材を積極的に使用し、アスファルト等の処分についても資源リサイクルに努めた。	評価	1
---------	---	----	---

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

3. 総合的な評価と方向性

総合評価	1	光明配水場に小水力発電設備導入の協定を結び発電設備を設置することになった。今後も設備設置に向けた取組みを継続する。また、将来水量を見据え、今後も送配水ポンプ更新時にダウンサイジングの検討を継続する。また、全ての管路工事の際は再生材使用などリサイクルに努めており、今後も適切な省資源対策として継続する。	方向性 継続
------	---	--	-----------

方向性
継続…現状通り取組を継続することが適当である
拡充…取組方法の拡充を図る必要がある
縮小…取組方法の規模の縮小を図る
改善…取組内容や方法を見直す必要がある
廃止…取組を廃止すべきである
事業完了…目標達成のため終了した事業

評価
1…「目標に向けて計画通りに進捗」
2…「進捗に少し遅れがあるが、翌年度以降の計画期間内に目標到達する見込みがある」
3…「取組内容の拡充や見直しが必要」

進行管理シート⑫

目標 【持続】6. 業務の効率化を図ります

資料⑤

実現方策 6-3 民間活用の検討

1. 主な指標

PI番号	指標名	単位	2017（基準値）	2020数値	2028（目標値）

2. 具体的な取り組み（令和3年度）

○民間活力の導入と連携体系の構築

種別	取組内容	担当課	方向性
新規	基盤強化の選択肢拡充のため、DB発注方式など地域の実情に応じた官民連携の検討を行う。	上水道工務課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	日本ダクティル鉄管協会が主催する研究会に参加し、試験的に工事発注・施工を行った。	評価	1
---------	--	----	---

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

3. 総合的な評価と方向性

総合評価	1	小規模な管路更新について、現在調査研究しているDB発注方式で、試験的に工事を発注した。地元業者の技術力向上や、発注者側の業務軽減などで一定の効果が得られるか見極めるため、今後もDB発注方式を継続する。事業効果も含め、引続き民間活力導入の取組みを継続する。	方向性
			継続

方向性	継続…現状通り取組を継続することが適当である 拡充…取組方法の拡充を図る必要がある 縮小…取組方法の規模の縮小を図る 改善…取組内容や方法を見直す必要がある 廃止…取組を廃止すべきである 事業完了…目標達成のため終了した事業
-----	---

評価	1…「目標に向けて計画通りに進捗」 2…「進捗に少し遅れがあるが、翌年度以降の計画期間内に目標到達する見込みがある」 3…「取組内容の拡充や見直しが必要」
----	---

進行管理シート⑬

目標 【持続】6. 業務の効率化を図ります

資料⑤

実現方策 6-4 広域化の検討

1. 主な指標

PI番号	指標名	単位	2017（基準値）	2020数値	2028（目標値）

2. 具体的な取り組み（令和3年度）

○水道事業広域化の検討

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	大阪府主催の「府域一水道に向けた水道のあり方協議会」に参加し、広域化に向けて検討を進める。	総務課	継続
新規	大阪広域水道企業団と「企業団との統合に向けた検討、協議に関する覚書」を締結し、広域化に向けた検討を進める。	総務課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	大阪広域水道企業団と水道事業を統合することにより経営基盤及び技術基盤の強化を図ることを目的として、統合による本市のメリットデメリットを精査しつつ、広域化に向けた検討を進めていく。	評価	1
---------	---	----	---

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

3. 総合的な評価と方向性

総合評価	1	大阪広域水道企業団からの支援を受けて広域化に向けた検討を進め、最適配置案等の策定を示され、統合に向けたさらなる検討を進めるため、「企業団との統合に向けた検討、協議に関する覚書」を締結した。水道事業を統合することにより経営基盤及び技術基盤の強化を図ることを目的として、統合による本市のメリットデメリットを精査しつつ、広域化に向けた検討を進めていく。	方向性
			継続

方向性	継続…現状通り取組を継続することが適当である 拡充…取組方法の拡充を図る必要がある 縮小…取組方法の規模の縮小を図る 改善…取組内容や方法を見直す必要がある 廃止…取組を廃止すべきである 事業完了…目標達成のため終了した事業
-----	---

評価	1…「目標に向けて計画通りに進捗」 2…「進捗に少し遅れがあるが、翌年度以降の計画期間内に目標到達する見込みがある」 3…「取組内容の拡充や見直しが必要」
----	---

進行管理シート⑭

目標 【持続】7. 持続可能な経営に努めます

資料⑤

実現方策 7-1 安定した経営の継続

1. 主な指標

PI番号	指標名	単位	2017（基準値）	2021数値	2028（目標値）
C102	経常収支比率	%	101.3	106.7	100以上
C112	給水収益に対する企業債残高の割合	%	359.6	428.1	500未満
C113	料金回収率	%	97.5	101.9	100以上
C118	流動比率	%	218.8	151.3	200以上

2. 具体的な取り組み（令和3年度）

○経営戦略の推進

種別	取組内容	担当課	方向性
新規	アセットマネジメントを取り入れた計画に基づく予算編成・執行管理を行う。	総務課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	建設改良事業について、使用材料の塗料に関する不適切な処理の問題などの外部的要因により、一部の工事で年度繰越が発生したが、概ね計画通りの進捗を保っている。新たな継続費の設定については、企業団への統合検討の状況を勘案しつつ、必要な時期に予算化していく必要がある。	評価	1
---------	---	----	---

○企業債残高の抑制

種別	取組内容	担当課	方向性
新規	補助金等の財源を確保することにより企業債残高を抑制する。	総務課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	令和3年度は、前年度にあった新型コロナウイルス感染症対応の水道基本料金の減免がなくなり、給水収益の額が増加したため、相対的に給水収益に対する企業債残高の割合が改善した。ただし、前々年度比では増加しているため、引き続き企業債残高抑制の取り組みを行う必要がある。	評価	1
---------	---	----	---

○水道料金水準の適正化

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	中長期的な視点から適正な料金水準の検討を行う。	総務課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	経営戦略では将来的な料金水準の見直しが必要となっている。また、企業団が策定した統合素案の経営シミュレーションにおいても料金改定の必要性が示されていることから、今後は、より具体的な検討を進めていく必要がある。	評価	1
---------	---	----	---

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

3. 総合的な評価と方向性

総合評価	1	今年度は前年度と比較して、水道基本料金の減免関連で給水収益や他会計補助金に増減があったが、収支が相殺されるため、経営への大きな影響はなかった。加入金の増や退職給付費の大幅減により、経常収支比率等の指標が上向いているが、全体的にほぼ計画どおりであった。今後も予算編成及び執行管理を通じて着実に計画の実現を図っていくとともに、補助金等の財源の確保や料金水準の検討を進める必要がある。	方向性
			継続

方向性	継続…現状通り取組を継続することが適当である 拡充…取組方法の拡充を図る必要がある 縮小…取組方法の規模の縮小を図る 改善…取組内容や方法を見直す必要がある 廃止…取組を廃止すべきである 事業完了…目標達成のため終了した事業
-----	---

評価	1…「目標に向けて計画通りに進捗」 2…「進捗に少し遅れがあるが、翌年度以降の計画期間内に目標到達する見込みがある」 3…「取組内容の拡充や見直しが必要」
----	---

進行管理シート⑮

目標 【持続】7. 持続可能な経営に努めます

資料⑤

実現方策 7-2 有収率の維持及び料金収納率の向上

1. 主な指標

PI番号	指標名	単位	2017（基準値）	2021 数値	2028（目標値）
B112	有収率	%	94.7	95.3	95以上

2. 具体的な取り組み（令和3年度）

○漏水調査の実施

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	計画的かつ効率的な調査の実施と、調査結果蓄積による漏水防止対策の検討を行う。	上水道工務課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	調査の実施により漏水を146件発見し、151,592（m ³ /年）の漏水が防止できた。	評価	1
---------	---	----	---

○料金徴収・滞納整理業務の強化

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	適切な水道メータの検針や取替・管理業務を継続しつつ、料金未納者への適切な措置を講じる。	料金課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	料金の現年度収納率（納期到来分）について、収納率は98.9%となり、直近数年と同等の収納率を達成している。	評価	1
---------	---	----	---

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

3. 総合的な評価と方向性

総合評価	1	料金未納者に対し適切な指導を行い、収納率向上維持に成果を上げている。また、漏水調査での発見件数及び漏水量は増加し、給配水管全体で漏水量が過年度より減少したため、有収率は昨年度に比べ上昇した。今後も有収率が維持できるよう引き続き計画的な漏水調査を実施する。	方向性
			継続

方向性	継続…現状通り取組を継続することが適当である 拡充…取組方法の拡充を図る必要がある 縮小…取組方法の規模の縮小を図る 改善…取組内容や方法を見直す必要がある 廃止…取組を廃止すべきである 事業完了…目標達成のため終了した事業
-----	---

評価	1…「目標に向けて計画通りに進捗」 2…「進捗に少し遅れがあるが、翌年度以降の計画期間内に目標到達する見込みがある」 3…「取組内容の拡充や見直しが必要」
----	---

進行管理シート①⑥

目標 【持続】7. 持続可能な経営に努めます

資料⑤

実現方策 7-3 財源確保の検討

1. 主な指標

PI番号	指標名	単位	2017（基準値）	2020数値	2028（目標値）
—	企業債充当率	%	100	100	75

2. 具体的な取り組み（令和3年度）

○資産の有効活用等新たな財源の検討

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	施設用地の一部を一般企業に貸し出して、使用料収入を得る。	総務課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	令和2年度から自販機の設置に関する私有財産賃貸借契約を結び、運用を行っている。今後も適切な施設管理と新たな有効活用の検討を行う。	評価	1
---------	--	----	---

○補助金・交付金の確保

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	耐震化補助金の採択基準を達成する。新たに活用可能な補助金を検討する。	総務課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	令和3年度は、生活基盤施設耐震化等交付金の採択基準である料金回収率100%を達成し、5年度も国庫補助金を得られる見込みである。しかし、近年の傾向として料金収入の減少が続く一方で、投資に伴う減価償却費が増加しており、料金回収率100%の達成が厳しくなっている。	評価	1
---------	---	----	---

○収支ギャップへの対応

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	収入の確保、費用の削減の取り組みにより収支改善を図る。	総務課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	近年続く給水人口の減少の影響で、有収水量は減少傾向にある。令和3年度も前年度に比べて有収水量は減少していることから、前年度の水道基本料金減免を加味しない、実質的な意味で給水収益は減少していると言うべき状況である。他方で、加入金の増加、退職給付費の大幅減少があったため、3年度は黒字を確保することができた。しかし、今後、料金収入は減少するとともに、減価償却費等の増加が見込まれ、収支の状況は厳しくなると考えられる。	評価	1
---------	--	----	---

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

3. 総合的な評価と方向性

総合評価	1	保有している資産について有効活用の検討を進め、さらに新たな財源確保を目指す。 しかしながら給水収益の減少や減価償却費の増加等で今後の収支状況は厳しくなると考えられるため、料金改定を含め、財源確保の検討を今後も進めていく必要がある。	方向性 継続
------	---	--	---------------

方向性	継続…現状通り取組を継続することが適当である 拡充…取組方法の拡充を図る必要がある 縮小…取組方法の規模の縮小を図る 改善…取組内容や方法を見直す必要がある 廃止…取組を廃止すべきである 事業完了…目標達成のため終了した事業
-----	---

評価	1…「目標に向けて計画通りに進捗」 2…「進捗に少し遅れがあるが、翌年度以降の計画期間内に目標到達する見込みがある」 3…「取組内容の拡充や見直しが必要」
----	---

進行管理シート⑰

目標 【持続】7. 持続可能な経営に努めます

資料⑤

実現方策 7-4 組織力の維持・強化

1. 主な指標

PI番号	指標名	単位	2017（基準値）	2020数値	2028（目標値）
C201	水道技術に関する資格取得度	件/人	1.43	1.67	1.43以上
C202	外部研修時間	時間/人/年	3.6	1.9	7.0
C203	内部研修時間	時間/人/年	1.7	3.9	3.0
—	業務マニュアル整備率	%	75	86	100

2. 具体的な取り組み（令和3年度）

○人材の確保

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	局で実施している事業を円滑に進めるため、技術職員の確保を人事担当部局も協力して努力をしていく。	総務課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	現状として、上下水道局における欠員の解消はされていない。局職員の高齢化等もあり、今後技術職員の不足が懸念されるため、上下水道局として職員の確保について努力していく。	評価	2
---------	--	----	---

○人材の育成

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	職員の資格取得を奨励し、全体としてスキルアップを図る。	総務課	継続
継続	基礎知識の習得を目指し、電子教材を作成して新規配属職員向けの研修を実施した。	総務課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	コロナ禍のため、参加者を集めての座学研修はできなかったが、電子教材を作成して研修を行った。情勢に左右されず安定した人材育成ができるように引き続き検討を行う。	評価	1
---------	--	----	---

○業務マニュアルの充実

種別	取組内容	担当課	方向性
継続	各課におけるマニュアルの状況確認、整理、改善の検討を行う。	総務課	継続

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題	マニュアル整備状況は前年度とほぼ同じである。整備状況の確認に合わせ、現状の課題を各課で共有し、整備の足りていないマニュアルの見直しを促していく。	評価	1
---------	--	----	---

種別	取組内容	担当課	方向性

【種別】新規・継続・再開

現状分析・課題		評価	
---------	--	----	--

3. 総合的な評価と方向性

総合評価	2	前年度から新型コロナウイルス感染症の影響で対面での研修が少なくオンラインによる研修が増加している。例年よりも研修時間が少なくなったが、状況に合わせた研修方式を検討して人材の育成を行った。今後も安定した組織を維持・強化するために、人材確保はもとより、コロナ禍でも取り組める人材の育成を行い、マニュアルの充実を図っていく。	方向性 継続
------	---	---	-----------

方向性

継続…現状通り取組を継続することが適当である
 拡充…取組方法の拡充を図る必要がある
 縮小…取組方法の規模の縮小を図る
 改善…取組内容や方法を見直す必要がある
 廃止…取組を廃止すべきである
 事業完了…目標達成のため終了した事業

評価

1…「目標に向けて計画通りに進捗」
 2…「進捗に少し遅れがあるが、翌年度以降の計画期間内に目標到達する見込みがある」
 3…「取組内容の拡充や見直しが必要」